

紫水クラブ
同窓会だより 31号

発行日 平成26年11月1日

会 員 数	
さつき会	3,963人
みなづき会	1,595人
きさらぎ会	1,091人



同窓会電話番号 027-220-8948(代) 群馬大学医学部保健学科 〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22 <http://shisui.dept.health.gunma-u.ac.jp>



紫水クラブの皆様には、日頃より暖かいご支援を賜りありがとうございます。以前にこの同窓会誌でご報告させていただきましたように、群馬大学は平成二十三年七月二十二日をもちまして世界保健機関（WHO）より正式な協力セ

ンター（WHOCollaborating Centre: WHOC）に指定されました。これまで群馬大学保健学科が培ってきたチーム医療教育（Interprofessional Education: IPE）の実績が認められたものです。今後は保健学研究・教育センターの「多職種連携教育推進室」がこの活動の核となり、全学組織である「多職種連携教育研究研修センター」がWHOと協力して「チーム医療教育の研究と研修」を行う体制が整いました。こうし

た活動を広く国内外に広めるために、「多職種連携教育研究研修センター」と保健学研究科が共催して、高田邦昭学長が運営委員長となり「群馬大学WHO協力センター指定記念シンポジウム」を本年七月五日に開催しました。

目 次	
本 部 会	: 1面・12面
さつき会	: 2～6面
みなづき会	: 7～10面
きさらぎ会	: 11面

り暖かいご支援を賜りありがとうございます。以前にこの同窓会誌でご報告させていただきましたように、群馬大学は平成二十三年七月二十二日をもちまして世界保健機関（WHO）より正式な協力セ

ンター（WHOCollaborating Centre: WHOC）に指定されました。これまで群馬大学保健学科が培ってきたチーム医療教育（Interprofessional Education: IPE）の実績が認められたものです。今後は保健学研究・教育センターの「多職種連携教育推進室」がこの活動の核となり、全学組織である「多職種連携教育研究研修センター」がWHOと協力して「チーム医療教育の研究と研修」を行う体制が整いました。こうし

た活動を広く国内外に広めるために、「多職種連携教育研究研修センター」と保健学研究科が共催して、高田邦昭学長が運営委員長となり「群馬大学WHO協力センター指定記念シンポジウム」を本年七月五日に開催しました。

メンバーで、地域と国際の観点から保健人材育成の課題についてご講演いただきました。このフォーラムでは群馬県とモンゴルの地域における多職種連携とその教育の有用性について有意義な討論が行われ、地域社会の求める保健学教育・研究に発展させる基礎ができたと考えています。

群馬大学WHO協力センター指定記念シンポジウムの開催報告

—保健学研究科のプロジェクト特別経費事業との合同開催—

保健学研究科長・医学部保健学科長
多職種連携教育研究研修センター長 渡邊 秀臣

解をいただき深く感謝申し上げます。本年度の予定事業は、例年通りの同窓会活動を順調に進めているところであります。本年度は、五月の総会でご承認いただきました群馬大学WHO協力センター指

定記念シンポジウムへの支援を行いました。世界のチームワーク教育をリードする拠点となるものです。今号ではそのシンポジウムの概要と報告を兼ねて、渡辺秀臣保健学研究科長・保健学科長にご寄稿いただきました。ジュネーブ、フィリピン、モンゴルなどからWHO職員や大学関係者など多数の方も出席されておりました。この大きなイベントを紫水クラブとして支援しましたことを多方面の方々から感謝されております。これも会員の皆様のご理解によるものです。会員の皆様に御礼を申し上げます。今後とも紫水クラブの活動にご理解、ご協力をお願い申し上げます。

このシンポジウムでは、本学WHOCの担当であるWHO西太平洋地域事務局（WHO/WPRO）と厚生労働省および参議院からこの保健人材の専門家をお招きして、基調講演として保健人材育成の課題と本学WHOCに対する期待についてそれぞれのお立場からお話いただきました。国際社会が取り組む共通の課題を共有し、特に遠隔僻地での保健人材育成におけるIPEの役割が共有されたと思います。一方、群馬大学大学院保健学研究科では、多職種連携教育を推進する「多職種連携教育推進室」の他に「国際保健推進室」と「地域保健推進室」を設置して、平成二十四年度よりプロジェクト特別経費事業「国際的視野を持つて地域社会で活躍する多様な保健人材の育成」として保健学の国際化と地域交流に基づく教育・研究を推し進めています。

今回のシンポジウムは、皆様の中にはお気づきになられた方もいらっしゃるかもしれませんが、朝日新聞、上毛新聞、ぐんま経済新聞などで紹介されました。広く社会に広報ができたと感じています。こうした実績を基にしてグローバル化に向けた国際活動を行うとともに保健学科の質の高い教育を充実させて参りたいと考えています。本シンポジウムの開催にあたりまなご支援をいただきました、運営委員一同に代わりまして、ここに厚くお礼を申し上げます。これからも紫水クラブの益々の発展に寄与すべく教職員一同、誠心誠意努力して参ります。今後とも、ご支援、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



会長挨拶

会長 山路 雄彦

紫水クラブの会員の皆様には、同窓会活動に対するご協力・ご理

解をいただき深く感謝申し上げます。本年度の予定事業は、例年通りの同窓会活動を順調に進めているところであります。本年度は、五月の総会でご承認いただきました群馬大学WHO協力センター指

定記念シンポジウムへの支援を行いました。世界のチームワーク教育をリードする拠点となるものです。今号ではそのシンポジウムの概要と報告を兼ねて、渡辺秀臣保健学研究科長・保健学科長にご寄稿いただきました。ジュネーブ、フィリピン、モンゴルなどからWHO職員や大学関係者など多数の方も出席されておりました。この大きなイベントを紫水クラブとして支援しましたことを多方面の方々から感謝されております。これも会員の皆様のご理解によるものです。会員の皆様に御礼を申し上げます。今後とも紫水クラブの活動にご理解、ご協力をお願い申し上げます。

今回のシンポジウムは、皆様の中にはお気づきになられた方もいらっしゃるかもしれませんが、朝日新聞、上毛新聞、ぐんま経済新聞などで紹介されました。広く社会に広報ができたと感じています。こうした実績を基にしてグローバル化に向けた国際活動を行うとともに保健学科の質の高い教育を充実させて参りたいと考えています。本シンポジウムの開催にあたりまなご支援をいただきました、運営委員一同に代わりまして、ここに厚くお礼を申し上げます。これからも紫水クラブの益々の発展に寄与すべく教職員一同、誠心誠意努力して参ります。今後とも、ご支援、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。